

4. コメント

○田 (k)

○外国の登山にしろ、国内の登山にしろ、私の周囲には嬉しい仲間がいっぱいです。遠い昔は登山中、仲間を助ける事も多々ありましたが、最近は助けて貰う場面ばかりです。

完璧登山という言葉を目に、耳にした事は…。(私の造語かも)

私のイメージする完璧登山とは。簡単に言えばメンバーの手を借りずに登頂、下山する事とイメージしておりますが、果たして…。

残念な事に今回のモンゴル登山は私のイメージする完璧登山とは悲しい事に、少々はずれてしまいました。企画当初より、メンバーに付いて行けるか、迷惑を掛けやしないかなどは当然、危惧はしていました。登れる所まで登り、後は潔く

中断して待機、もしくはベースキャンプへと想いを巡らせていました。

案の定、4合目でくらいの所で体力、気力が消滅状態に。天気も良かったので、一足先に下山を告げるも、誰にも相手にされず、押し問答があったか否か、定かではありませんが通訳のオギさんが自分のザックを担いで、さあ行こうと励ましの声。ザックを担いで貰っての登山続行に少々の抵抗がなかった訳ではありませんが今、思えば素直になれて良かったと。劇的回復とはなりませんでしたがその後は皆の励ましもあり、スローペースながら順調に高度上げる事が出来ました。格好を付けようと、山頂手前の9合目辺りでオギさんからザックを貰って山頂へ。モンゴルアルタイ山脈の絶景です。そして、何より11人の全員登頂です。感涙…。これは今回のモンゴル登山の最大の成果と言えるかも知れません。完璧登山をなし得なかったのは私だけでチームとしては申し分の無い、完璧登山であったと確信しております。チームワーク(現地スタッフも含めて)も良し、ユーモアあり。

メンバーの年齢構成は20代から年代別に70代まで。その差50歳。山とは実に良いもので、その年齢差でも等しく支え合い、喜び合える、何と素晴らしい事か。豊嶺会に関わらせて貰って50年、私にとってその集大成が今回のモンゴル登山と心しております。私の登山人生も終盤かと自覚の日々ですが、山の広大なフィールドにはまだまだ私でも受け入れて貰える余地もあるかと…。「山高きが故に尊からず」を座右の銘にぼちぼち登ります。そして、何より【山に感謝仲間感謝】です。

50周年記念登山

I 藤

ザレた斜面を登りながら、私は40年前を思い出していた。会創立10年を記念した海外登山で、駆け出しの私は高山病に苦しみながらも北米大陸最高峰のマッキンリー（デナリー）の頂に全員一緒に立つ事が出来た。いや、先輩に立たせてもらったのだった。それは私の体調を考慮して、全員一緒に頂に！という隊長の作戦に導かれてのことであった。山頂ではサングラスの内側がくもって視界が悪くなったのは言うまでもない。

今回のモンゴル登山は盆休みを絡めた、私にとっては休みやすい日程だったのですぐ応募した。モンゴルの国民性なのか、行程変更、時間変更を繰り返しながらも、結果的には11人全員が同時に頂に立てた。お互いの体調等を考慮しながらの思いやりの心を持った行動こそが豊嶺会の神髄である。皆、充分楽しんで50周年記念登山を無事終えることができてほっとしている。参加者のチームワークはもちろん、応援してくださった会員、協力してくれた家族、休みをくれた職場に感謝いたします。ありがとうございました。これを機会に豊嶺会がさらに発展することを願ってやまない。



0 城

モンゴルはいつか行ってみたいと思っていた国。

彼の国を知ったのは、子供の頃に教科書に載っていた『スーホの白い馬』。あの救いのないエンディングは小学校低学年の無垢だった心にトラウマを刻んだ。

それから実に40年。

2019年の海外登山はどこに行こうかという話が出たのは6月。

モンゴルの他にも、ロシア・カムチャツカ、トルコ、イランも候補に挙がったが、いずれも政情や蚊の恐怖から断念となった。

Malchin Peak は初めて耳にする山だったが、26年前に両親を残してきょうだい3人で訪ねた中国と、17年前に生後2ヶ月の娘と妻を残して訪ねたカザフスタンと、果てはロシアとも国境を重ねるエリアにあり、強く思いを馳せたことを覚えている。

果たして道中は予想外のことがたくさんあって楽しく、全員で好天の山頂に立って愉しく、無事に帰国して思い出を積み重ねた。

旅では多くの人と関わり、お世話になる。

国内でもそうだが、海外登山ではより一層である。

旅行会社とガイドの方はもちろんのこと、空港スタッフ、市中のデパートやお店のひと、道中で出会う売店の店員、公園管理事務所の係員、そして山中で出会う登山者たち。

我々は彼らとの交流の中で刺激を得て、彼らもまた我々から刺激を得る。

山旅という、旅と登山の両方を愉しむ贅沢な時間を、住所年齢職業種々雑多なパーティで共有する、この素晴らしさは堪らない。そう感じながら30年足らず、とうとう人生の半分以上を豊嶺会で過ごした。そして今回また新たに若い道連れと共に、また新たな国に足跡を残すことができた。

旅はまだ続く、まだまだ登る。

さあ、次はみんなでどこへ行こうか。

M 田 (k)

今回も、山の仲間やモンゴルのスタッフ、
みんなのお陰で楽しいモンゴル山行になりました。感謝です。
ありがとうございました。
天候にも恵まれ、全員が山頂に行けて、
無事降りて日本に戻ってこれたのが一番良かったと思います
また、次回も、よろしくお願いします

M 田 (m)

東西に長いモンゴル。
草原と馬と青い空。
それから、ゲルにモンゴル相撲。
遊牧民の生活は至ってエコロジー。
乳製品が苦手な私としては、ちょっと辛かった。
モンゴルの山、マルチンピーク。4000m 峰。
久しぶりの長い山行。
私の体力は最後まで持つのか？
参加者全員での無事登頂！
50 周年記念に花を添えることができました。
くじけず、一步一步、無心に歩けたことが
私にとって、また人生のプラスになったように思います。

N 根

あっという間だったけど、猛烈に濃かった 8 日間。 憧れのゲル生活、数えきれない羊
やヤギ！ランクルで駆け抜けた、だだっ広い草原。 思い出を挙げればキリがないです
が、やはり一番はマルチンピークに全員で登ったことです。 山頂での全員の涙に、改
めて豊嶺会の結束力を感じることができました！ 皆さん、本当にありがとうございました！

Y 井 (n)

山を初めて 10 数年、豊嶺会に入って 7 年位経とうとしていますが、いつか海外の山にも登ってみたい！けど子どものこともあるしな〜とタイミングを見計らっていた矢先に 50 周年記念事業として今回のモンゴルの話があがってきました。これは行くしかねえ！と家族も快く？送りだしてくれた初めての海外登山。高山病とか治安のこととか色々不安がありましたが、改めて振り返ってみると本当にいい山行だったなとしみじみ思います。食べ物もおいしかった！心残りはまたしても伊藤さんにロープ繋いでもらったの登頂だったこと。メンタルの弱さは未だ健在…この先登りたい山を考えると克服しないといけないのは分かってる、分かってるんだけど年々ビビリになってます…先輩方にはいつも助けられて感謝感謝感謝しかありません。いやホントに。50 年という節目の年、この先 10 年 20 年ちょっとずつ恩返しができるよう鋭意努力します！と決意表明しておきます。

M 田 (t)

つい半年前までは人生でモンゴルに行くことがあるとは思っていませんでした。それまでの登山の経験といえば、くじゅう山系がほとんど、3,000m 級といえば 4 年間に富士山に登ったことがあるくらい。しかも富士山の時は 7 合目から高度障害発症で、最高地点の剣が峰には行けなかったほどでした。そんな私が、4,000m を超える山を目指すことになるとは。健康診断では毎回赤血球が正常値の下限近く＝「酸素運搬能力が低い」との結果が出るため、酸素運搬能力を向上すべく定期的な有酸素運動を行うべきとは分かっていたのですが、なかなか時間を確保することができず結局何のトレーニングもしないままモンゴルに。高山に弱い私は、ベースキャンプで既に頭痛発症。登り始めると極端に息が上がる有様で、同行した皆さんには大変ご心配をおかけしました。しかし山頂につくと、山頂の景色の雄大さとそれまでの高山病のきつき、そしてここまで導いてくださった皆様方とともに山頂に立てた感動で、嬉し泣き（号泣）でした。皆で抱き合って登頂を喜んだのは、今思い出しても目頭が熱くなります。興田さんからいただいた写真は部屋に飾ってあります。写真を見るたび、モチベーションがあがります。今回、このような機会をいただいた豊嶺会に感謝し、これから少しずつでも会に恩返しをしながら今後も登山を楽しんでいけたらと思います。

追記1 ウランバートルのフラワーホテルから自分宛に絵葉書を出しました。フロントでホテルから絵葉書が出せることを確認し、切手代も支払い、日本語ができるフロントの方に、宛名の書き方に不足がないか確認したのですが、旅が終わって6か月が経つ現在も届いていません。

追記2 ベースキャンプからウルギーへの帰路／自然公園入口からウルギーへの道のりについて

12:55 に公園入口到着後、昼食・ラクダからランクルへの荷物の積み替えなどを経て13:50 頃、我々の使ったテントなどを運搬するワゴン車とランクル4台、計5台で公園を出発しました。ウルギーのホテルから公園管理事務所（国境警備隊詰め所？）付近に来るときは6時間弱で到着、しかもその時は道中車両の分解修理（調整？）などをしながらだったので、もう少し早くウルギーに到着するかと思っていたら、大間違い！

①我々が自然公園内に居た間に雨が降ったため、すべての川が増水。しかしドライバーチームは距離が短いからと、大きな渡渉ポイントのあるルートを選択。タイヤがほぼ水面に浸かってしまうような渡渉ポイントでのスリルは登山とは違うスリルがありました。これはこれで予定通りだったのですが、、

19:00 最も大きな渡渉ポイント、5台中4台の車両が渡渉を終えますが、トルコ大学出身のドライバー：カナタの車両だけが渡渉ポイントに到着しません。しかしここは電波の繋がらない荒野のど真ん中。30分程待ってもカナタの車両はやってくる気配がありません。

不安に思いながらも先に進むことにしました。

後で分かったことですが、車両を大切にするトルコ大学出身ドライバー：カナタだけはドライバー同士の打ち合わせに反し、独断で橋を利用するルートを選択したとのこと。。

②基本的に舗装路がないエリアは道が幾筋もあるため、大まかなルートだけドライバー同士で意思共有し、車列を作らずに各ドライバー思い思いのルートを疾走します。そのため走行中他の車両と並んで走ることもあれば、1台だけで走ることも。行きは、車列を作らず本当にバラバラに進みました。帰りもそうなるのかと思いきや、私の車両を含む数台の車両は互いが目視できる範囲で走行。しかも速度も何となく遅い気がします。やたら多い休憩の際、O田(k)さんやI藤さんが乗る蝶野正洋似のドライバーが運転する車両の足回りが危ないことになっていることが判明。そういえば、来るときにサスペンションが調子悪いとか言って、休憩中に分解してたっけな。。そういえば、Y根、M田(t)、K島が乗る車両も、助手席のドアは内側から開かなかったし、ムーンルーフのガラスが割れていたし、速度計はずっと0km/hを指したままだったし、イグニッションも外されていたっけな。。

途中、遊牧民の家に立ち寄った時には、本当にウルギーまで到着できるのか不安になりましたが、そこで蝶野ドライバーが太目の針金を調達。応急処置を施しやっとな安心して走行することができました。

結局、ウルギーのホテルに着いたのは出発して約 6 時間半経過後の 20 : 10。無事到着して良かった。。。

K 島

モンゴル遠征 モンゴルはマルチンピークへの登山は不安な気持ちしかなかった。赤嶺会長の「モンゴルに行かんか」という一言にほぼ二つ返事で行くことを決めたのが、今旅の始まりだった。海外へ行くのは人生で 2 回目でその上登山です。メンバーも初めての方も多く、馴染めるのかという不安もあったが、気さくな優しい方ばかりでいつの間にかそんな不安は無くなっていた。

国立公園までの陸路は 4 台のランクルでの移動だった。さながら特殊部隊のようでカッコよかった。移動途中でさえ、とてつもないスケールの景観に見惚れながら、モンゴルの素晴らしさに触れられた。

国立公園では、その広大な景観、スケールの大きさに圧倒された。今まで見たことのない迫り来るような大きな山脈が周りを囲み、目の草原は海のようにひろがっていた。BC に近づくと、ボターニン氷河が見えてきた。人生で初めて見る氷河と、その傍にそびえ立つアルタイ山脈は美しく、そして、凛々しく息を呑んだ。ピークアタックの日は、パーティー全員の顔はいつもに増して引き締まっていた。滑落や落石の危険が頭をよぎる事もあったが、パーティーの存在は大きく私の心を勇気づけてくれた。おかげでマルチンピークの、登頂を果たした。登り終えた時の高揚感は今でも忘れられない。皆んなで抱き合ったり、握手をしたり、声を掛け合い登頂を喜んだ。涙を流す者もいた。あの光景は私の心にずっと刻まれる事だろう。

今回の海外山行に同行した豊嶺会のメンバー、通訳のオギさん、運転手の皆様、コックさん、モンゴル国内での旅行会社の皆様本当にありがとうございました。

0 田 (m)

モンゴル山行について

みなさんお久しぶりです。

豊嶺会の 50 周年ということで、しばらく豊嶺会とは疎遠になっていましたが、自分もイベントに参加できないかと考えていました。

県体の山岳がきっかけとなり、50 周年モンゴル山行に同行することが可能になりました。

とても思い出に残る山行となりました。

- *メンバーが良かった・・・旅には仲間が欠かせない。いろいろあったけど、たくさん思い出をもらいました。
- *ガイドが良かった・・・とても親切で日本語も上手。民族衣装を買うのを手伝ってもらいました。
- *山頂で感激して涙が出た・・・みんなと登れたことが感無量で涙がでました。
- *民族衣装で山頂へ・・・山頂でちょっとだけ人気者になった。自分で言うのもなんだけどとてもよく似合っていた。
- *ランクルが凄かった・・・泥の中を這い上がり、川を渡り、道なき道を行く。日本車って凄いなと思いました。
- *たくさん買い物をした・・・4万円が100万ティグルグになり、いろんなものを買えて楽しかった。
- *馬乳酒がうまかった・・・最初はスーパーで買ってきた馬乳酒を飲んだけど、まずかった。でも、後でゲルにおじゃましたときに飲んだ自家製馬乳酒はおいしかった。
- *カザフ族の人が美人だった・・・日本とロシアのハーフみたいな人が多く、みんな美人だった。
- *ゲルが欲しくなった・・・なれば簡単に設置ができ、わりと広く快適。本気で買おうと思っている。
- *おいて帰られるかと思った・・・最後の朝に寝坊して、もう2、3日ウランバートルを楽しもうかと本気で思った。みなさんご迷惑をおかけしました。申し訳ないです。
- *福岡のおばちゃんにきれられた・・・Nちゃんと帰りの飛行機がいつしよとばっちりを食らい、僕もおばちゃんのついでギレにあった。
- *Nちゃんがう〇こをふんでいた・・・モンゴルで運をつけるとはとんだラッキーガールだと思った。

またみなさんと登れることを夢見て、体力維持に精進していきます。
みなさん、ありがとうございました。